

第5回県立高等学校編成整備に関する懇話会概要

開催した会議の名称	第5回県立高等学校編成整備に関する懇話会
開催日時	平成23年6月3日（金）10：00～12：00
開催場所	（所在地）〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 （会場名）沖縄県庁13階第1会議室
出席者	委員（懇話会会長）前泊委員 （懇話会会長代理）前新委員 上地委員、北川委員、城間委員、宮城委員、三村委員 事務局（総務課） 大城総務課長、嘉数企画監、 渡久山主任指導主事、桃原指導主事 （県立学校教育課） 山城班長、與那嶺班長 （義務教育課） 照屋主任指導主事
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	一人
会議の概要	<p>1 開会 2 事務局説明 ①前回（第4回）懇話会の概要 → 一部訂正あり ②（HP掲載予定）の確認 → 訂正後の掲載です承 3 議題 【素案】のP16からP21のⅢ新しいタイプの学校、Ⅳ学科の配置の在り方に関して</p> <p>各委員からの意見は下記のとおりである。</p> <p><主な論点> Ⅲ 新しいタイプの学校について</p> <p>○資料（他県の例HPより）について事務局から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（資料2）エンカレッジスクールの一つの東京都の秋留台高校について、エンカレッジとは励ます、力づけるの意義があり、基礎基本を徹底して、社会に出て活躍できるように生徒指導面も重視する学校であり、授業（ベーシック）では小学校レベルのプリント学習を行っている。 ・（資料3）佐賀県の大分県の太良高校は、HPに全県募集枠40人プラス若干名とあり、不登校経験者、発達障害、高校中退者の子ども達も受け入れる。教育課程は、生徒の進路及び、特色に応じた選択科目がとれるようになっており、体験活動も重視、単位制である。以前は連携型の中高一貫校であった。

- ・（資料4）秋田県の明德館高校は、駅前のビルの中に3部制の定時制をおいている。スペース・イオという仕組みもあり、小中学生の不登校の子ども達を定時制の課程の中に入れて修学体験をさせ、学校に復帰させるような取り組みをしている。ITとか個別学習など個に応じた学習形態をとり手厚く支援している。
- 通常は1単位時間は50分であるが、都立の秋留台高校は45分を1単位時間として認められている。ベーシックだけが30分で、それ以外は45分としている。ベーシックを30分の2時間で1単位時間としている。
- 秋田県は教育特区で実施できているが、県の制度やシステムを変えることで本県でもできることだと考えている。
- 明德館高校はIDで出席を管理し、ビルの中に体育館がありモダンで新しく気持ちがいいところである。このようなところにも目を向けていることを示すことは子供達によいと思う。高校では不登校生を学校に向かわせることは難しい。スペース・イオのようなところで中学生から指導していく必要がある。
- 資料にある学校では、生徒の年齢について中学卒業者を対象としているが、中退した生徒も再入学することは可能である。
- 太良高校は、ボランティアや、就業体験などでも単位が認められるとあるが、県内でも認められている。
- 太良高校は、全県募集枠として対象者が書かれているが、前回の話し合いでは「不登校生徒や中退の者が行く学校と指定したら、生徒は入学を希望しないのではないか。」という不安が指摘されていた。
- 小学校の内容から学習し直すということで、この施設で高校卒業程度の学力は身につけられるか懸念されるようだが、複数校を視察、聞き取りした結果、卒業後は大学に進学する生徒もいるし就職する生徒もいる。それなりに学力を付けている。
- 東京の秋留台とあと2つの高校は異質のものだと思う。エンカレッジの学校は慎重にして欲しいという意見である。これは前回にも言ったが、高校にきて小中学校の内容を理解できない子どもを多数発生させているのが問題であるので、小中学校の教育改善に力を入れる必要がある、重視する必要がある。よって秋留台高校のような学校については慎重にして欲しい。
- 太良高校において、特徴的なものはキャリア教育を重視し、実施していこうということがあり、ガイダンス的なものを重視している。
- 県内の学習障害の子どもたちの現状を踏まえ、他府県の資料も見て、セーフティネット的な学校、定通制の再編、泊高校の過密解消は、現実的には必要であろうという考えに至っている。
- 本県の抱える生徒の実態を考えるなら、このような子供達を何とかしないといけないという意見である。このことについては全委員納得されると考える。
- セーフティネット的な学校については、現場からの意見を反映してのものであるならば、やってあたり前であるので、賛成である。

- 高校での対応は賛成であるが、もっと中学校への対応にも力を注ぐ必要があるのではないか。現に中学校にも問題行動を起こす生徒には学習障害、発達障害の生徒も数%いる。中学校でもベーシックのような授業ができないか、学習支援員、少人数学級の促進、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、養護教諭の複数化などの人的配置や施設整備などを行えば、中学校でも子供達の学力を身につけることは可能ではないか、並行してお願いしたい。
- 進学率が上がって、いろんな生徒が高校に入学している。小中学校は修得主義ではなく履修主義である。高校でも履修主義に傾きつつある。根本的にこれを改善することも検討すべきと考える。
- スペース・イオで中学生がよくなっても高校では別の学校に行って、また、不適應を起こし不登校になるという課題もあり、高校へのつなぎについて検討が必要である。
- 学習指導要領が変わり高校でも義務教育段階の学び直しの授業ができるようになった。それらしい授業を行っている学校もあるが、教育課程に取り入れている学校はないことが校長会の調べで分かった。九州地区でも行われていないようである。
- 一つの学校をつくってそこに集めるということも必要だが、それぞれの学校で取り組む必要があり、どの学校でも対応できるように教育課程の弾力化も必要であることだと思う。
- 資格を取得すると単位に認められたり、アルバイトやボランティアをしても単位が認められることも専門高校では実施している。インターンシップでの単位取得ということもある。
- 新しいタイプとして、セーフティーネット的なものと定通制の再編としての2つとも既存の高校を再編してということだが、2つ一緒にできないだろうか。
- 新たな学校をつくるということは定員を満たしていないという現状や財政上から考えると難しい。現実的な方法としては、既存の高校に対象となる生徒が入れるシステムづくりに取り組む、既存の高校を改編するということが現実的であると見ている。
- 既存の学校に単位制の仕組みをとりいれるとあるが、多くの学校にその様なシステムを取り入れたほうがよいのではないか。
- 地域的なものもあるので、いくつかの学校に取り入れていくという考え方である。
不登校等は、ある地区に集中しているということではないので、島尻地区、那覇地区、中頭地区に設置する必要があると考える。
- 各地区に一つつくるとか、また、既存の高校に単位制も同時に取り入れていくということなのか。今ある単位制と、新しいタイプの学校の違いは今後検討を要する。
- 本県での単位制の学校というのは、定時制の学校、真和志高校、泊高校、総合学科の学校ということになる。総合学科は原則、単位制ということになっているが、沖縄では実質単位制になってない。

- 単位制はとてもよいところもあるが、中学を卒業したばかりの生徒に授業を選択させることは難しい。
- 発達障害の生徒に対しては専門性が必要であるが、具体的なことは、実施計画での課題として提起したい。スペース・イオについては沖縄で可能ならばやった方がよいと思う。
- 太良高校が普通の高校から、現在の学校になった経緯については、もともと連携型の中高一貫校であったが、連携中学校からの入学が23.8%と少ないことから、学校が改編されている。
- 新しいタイプの学校については、セーフティーネット的な学校という表現になっているが、先ほど多くの賛成の意思表示があったスペース・イオのような考え方については模索していく必要がある。また、現実的な問題として不登校や中退していく生徒がいるということで、既存の高校を単位制に改編し、この子どもたちに対応するというこゝでまとめる。
- 定時制・通信制の再編については、生徒の規範意識の欠如等の課題に対して県として多く対策を広げなければいけないので原案にあるように既存の学校を改編するかたちでまとめる。

IV 学科の配置と在り方について

- 普通科に併設されている専門学科は、定員割れを起こしているのもみられる。専門高校の学科については、例えば農業についても多様化し、学科名も多くなりすぎ違いが分からない。中学生には分からないのではないか。
- 同じ学習内容なのに学校によって名称が変わってしまっている。特に全県区になっているので、離島の生徒が分かりやすくする必要があるのでないか。また、学科が多様になり事務作業も煩雑になっている。財政上の支援も十分ではない。
- 球陽高校の理数科でも、この4年間で2, 3回定員割れを起こしている現状がある。普通科と理数科で何が違うかと考えると違いがわからない。逆に普通科にすると生徒は増えるのではないか。
- 理数科の設立の趣旨は「理系科目の学習をより深めたいと希望する者を受け入れ、事象を探究する過程を通し自然科学及び数学における基本的な概念、原理、法則等についての系統的な理解を深め科学的数学的に考察し処理する能力と態度を育てる」と第2期編成整備計画にある。
- 専門学科は専門教科を25単位以上を設置する必要があるという基準がある。理数科は普通科よりも通学区域が広がる。
- 【素案】の現状と課題にある領域を越えた幅広い知識、横断的連携について、その文案に沿った方向が望ましいのではないかと考える。職業もいろいろ複合し横断的になっているので、体育学科などで商業のリゾートのなものにも関係あるマリンスポーツの方向もいいのではないか。
- 現在、コースや系列として沖縄水産や宜野湾、那覇西にある。
- 多様な科目選択ができる状況とは、南部総合実業高校（仮称）の話題に上ったように、農業だけではなく工業も選択して、幅広く科目を学び、将来に役立てるような仕組みをつくったほうがよいのではないかとこの考えから計画されて

	<p>いる。</p> <p>○本県は、海洋県、島嶼県ということもあるので、そのような仕事も出てくると考える。地元の若者を育てる学科があってもいいのではないか。マリンレジャー関係の仕事をしている者は県外出身の青年が多い。</p> <p>○学校でも地域のニーズに応えるような学科もつくることも検討されている。しかし、実際にはそのような学科をつくっても生徒が集まらない、指導者の確保が難しいという現実的な課題がある。</p> <p>○【素案】に掲げられている文はそのまま生かしていくということでもとめる。</p> <p>○懇話会としてのまとめをする必要があるので、もう少し話し合う確認の場を持つことで委員一同了承した。</p> <p>○中高一貫教育校、那覇中等教育学校について、まとめの段階で再度話し合ってもいいのではないかとということもあり、次回審議することで了承した。</p>
	<p>4 連絡 次回懇話会は委員の希望日程を調整した結果6月15日とします。</p> <p>5 閉会</p>
<p>会議資料</p>	<p>資料1 第4回県立高等学校編成整備に関する懇話会概要</p> <p>資料2 東京都立秋留台高等学校（エンカレッジスクール）HP資料</p> <p>資料3 佐賀県立太良高等学校学校紹介HP資料</p> <p>資料4 佐賀県立太良高等学校学校生徒募集パンフレットHP資料</p> <p>資料5 秋田明德館高等学校について</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>担当課 沖縄県教育庁総務課教育企画班（渡久山・桃原）</p> <p>電話 098-866-2705</p> <p>FAX 098-866-2710</p>